



熊本の新しい力

38歳

西野だいすけ通信

創刊号（自己紹介編）改訂版

皆さま、こんにちは。西野だいすけです。「西野だいすけ通信」をご覧ください、ありがとうございます。皆さまからのご要望にお応えし、私が政治を志す理由や決意などについて、改めて申し上げます。

※本年8月発行の創刊号の改定版です。

- ◆ 昭和53年生まれ 38歳
- ◆ 熊本生まれ、熊本育ち
- ◆ 熊本高校、東京大学法学部卒業
- ◆ 元 財務省主計局主査
- ◆ 国会議員関係政治団体設立
（衆議院議員（候補者等））

プロフィール

自己紹介

身長：176センチ 体重：80キロ
 生年月日：昭和53年（1978年）9月22日
 血液型：B型
 学生時代の部活：水球部（高校、大学）
 好きな食べ物：
馬肉、トマト、なす、
白身の魚（スズキ、くちぞこ等）
 好きなもの
大河ドラマ、オリンピック、
紅白歌合戦、ドラマ金八先生
 尊敬する人：
田中角栄 元内閣総理大臣、
ヒラリー・クリントン 前国務長官 等
 座右の銘：
「一生燃焼、一生感動、一生不悟」

主な経歴

昭和53年 熊本県飽託郡飽田町砂原
（現・熊本市南区砂原町）生まれ

昭和60年 飽田東保育園卒園

同年 飽田町立飽田東小学校入学

平成3年 熊本市立城東小学校卒業

平成6年 熊本市立藤園中学校卒業

平成9年 熊本県立熊本高校卒業

平成10年 東京大学文科一類入学

平成15年 東京大学法学部卒業

同年 財務省入省（理財局財政投融资総括課）

平成22年 米国コロンビア大学公共政策大学院修了

平成23年 大臣官房秘書課課長補佐（採用担当）

平成24年 復興庁参事官補佐

平成26年 主計局主査（国土交通第5係担当）

平成28年 財務省退官

討議資料

西野だいすけ通信 創刊号（自己紹介編） 平成28年12月改訂

〈西野だいすけ事務所連絡先〉
 住所：熊本市南区田迎5-1-30
 TEL：096-379-6079
 Email：info@daisukenishino.com
 URL：http://daisukenishino.com

ポスティングボランティア募集！
 できるだけ多くの方に「西野だいすけ通信」を読んでもらいたいと考えておりますが、資金の関係でポスティングを業者の方をお願いすることができません。ご自宅の周辺5軒でも10軒でもありがたいです。当通信を知人友人にご紹介頂ける方は、ご連絡ください。

4月以降の一連の熊本地震で犠牲になられた方々に、心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。このような折、私事で大変恐縮でございますが、本年4月を以って、財務省を退職し、生まれ育った故郷、熊本を基盤に政治の道を志すことを決意しました。皆さまに末永く可愛がっていただけますよう、精進して参りますので、よろしく願い申し上げます。

政治は、幼いころからの憧れ

私は、4年前に他界した父の影響で、小さいころから歴史や政治が好きで、自然と政治的なリーダーに憧れをもつようになりました。父からは、「しっかり精進して、この国を担いうる、大きな人間になってほしい」と言われて育ってきましたので、政治の道を志すという私の想いは、ある意味、他界した父との約束とでも言うべきものかもしれません。

政治というのは、国や国民の皆さまに対して、そして、将来に対して責任のある大変な仕事です。生き馬の目を抜く厳しい世界とも聞きます。しかし、将来のビジョンを示して、国民の皆さまの先頭に立って、この国を、熊本を創っていくという政治家の仕事は、私にとっては、かっこいい仕事だと思いますし、人生を懸けるに値する仕事だと思います。

政治への思いは、憧れから覚悟へ

もう一つは、この国に、熊本に貢献していきたい、という思いがあります。私は、ありがたいことに、家族や親戚に恵まれ、また、教師にも友人にも恵まれ、公立の高校・大学で学び、財務省に入って、予算査定の現場、政策立案の過程を体験し、国費で米国に留学までさせていただきました。思えば、私は、熊本に、そして日本に育てていただいたと思っています。

今、この国は、多くの困難に直面しています。国内では、少子高齢化が急速に進展し、財政状況も極めて深刻です。外に目を向ければ、中国が台頭する一方で、同盟国アメリカの地位が相対的に低下するなど、国際情勢も大きく変化しています。また、我が故郷、熊本は、人口減少や地域活性化等の課題に加え、4月以降の一連の大地震により、さらに大きな困難に直面しています。

日本が危機に瀕した幕末の時代には、坂本龍馬はじめ、多くの志士たちが、困難に立ち向かったからこそ、今の日本があると思います。そうであれば、今、この時代には、社会に育てていただいた人間が、覚悟を決めて、様々な課題に取り組んでいかなければいけない、という強い思いがあります。

もちろん、不安もあります。私のような人間に、本当に政治を担う資格があるのか、と考えると眠れない日もあります。財務省に辞表を提出するとき、足が震えました。それでも、人生、一度きり。自分を信じて、支えてくれる人たちに感謝して、自分の信じる道を、突き進むしかない、と思っています。

政治の世界に、全人格を懸けて挑戦

私は、今まで、いろんな人からパワーをもらってきました。先日も、女性初のアメリカ大統領を目指して、最大限の努力を続けたヒラリー・クリントン前国務長官からパワーをもらいました。テニスの錦織圭選手にしても、歌手の石川さゆりさんにしても、苦しみもがきながら挑戦し続けている。私も、挑戦し続ける人間でありたいし、そのために努力を惜しまない人間でありたいと思います。

今まで培ってきた知識や経験だけではなく、私が持てる全てを、エネルギーも含めて全人格を懸けて、政治の世界に挑戦いたしますことを、皆さまにお約束して、ご挨拶とさせていただきます。皆さまからの力強いご支援、よろしく願い申し上げます。

西野 太亮